



新田駅西口に建設中の「カーソン・ビレッジ草加」

## 草加

## 米カーソン市の街並を再現

## NPO企画、新田駅西口に

草加市と国際姉妹都市を結ぶ米カリフォルニア州カーソン市の街並みが、NPO団体と民間業者の手で草加市旭町に再現されることになった。

海外の都市をモデルにしたまちづくりを住宅建設会社勤務時代に手がけてきた、開発プロデューサー・

須田恒弘さんが同社を退職し独立、NPO（特定非営利活動法人）「日本まちづくり推進協議会」（本部・草加市、会員約三百人）を今年五月に創設し理事長に就任、六月には分譲住宅の企画・開発を行う新会社「Seed Home（シードホーム）」を立ち上げ

「在職していた会社では、いくら地の活性化、魅力あるまちづくりのためといっても利益追求としてしか見てはくれないし会社の制約もある。ビジネスを考えた、まちづくりのための社会貢献をしたいという気持ちを持

ち続けてきた」という。カーソン市の街並み再現は、同NPO創設後第一弾の企画となるもので、新田小学校の南側に約2485平方メートルの土地を所有する会社から開発の相談を受けたことがきっかけだった。草加市民として須田理事長自身、カーソン市との交流が

成した。

二十五周年ということを知り、記念プロジェクトとして企画した。草加市国際交流協会を通してカーソン市に打診、渡米して現地を視察、当時のスニー市長ら同市の行政関係者の承諾も得た。

八月から、Seed Homeが調べ、カーソン市内でよく見られるオレンジの屋根に白壁を基調とする層層のカリフォルニア風のイメージの街並みを参考に、分譲住宅「カーソン・ビレッジ草加（十九戸）」の建設を始めた。一戸当たり100〜136平方メートル、モジュールが今月二十日に完成した。

須田理事長は「最近では松伏町でオーストリア・グライズドルフ市の街並みを再現した「マリアドルフゆめみ野」（百五十四戸）、千葉県流山市にニュージラントの国際保健都市ロトルア市を模した「ルア・ジラント流山」（百九十七戸）なども手がけ、それぞれ両国住民の草の根国際交流も盛んだという。須田理事長もロトルア市名誉市民などになった。

須田理事長は「草加市に姉妹都市カーソンの街並みが出る事で、行政だけでなく、さらに住民同士の交流の活性化につながれば」と話している。